



第114号

2013/6

岡山市コミュニティサイクル導入

5月25日、岡山市が今夏からコミュニティサイクルと呼ばれる有料レンタサイクルを開始することを発表した。今まで3回、岡山市中心市街地で行われた社会実験の結果を受けて、今回正式に導入されるようだ。今回のかわら版ではこれまでの社会実験の結果を見ながら、今回導入されるレンタサイクルについて考えてみる。

第1回目の社会実験

平成22年3月13日から同5月16日にかけて計65日間行われた。JR岡山駅前や後楽園など7カ所に自転車の貸し借りができるステーションを設置した。

利用時間は午前9時から午後6時。利用料金は無料と比較的使いやすいように見えたが、自転車は借りた場所に返却する必要があるなど、欧米で実際に行われているレンタサイクル制度にくらべると使い勝手が非常に悪かった。また、利用するためには申込書に記入する必要があるなど、「まず、使ってみよう」という最初のステップが非常に高かった。

用意された自転車100台。放置自転車を再整備したリサイクル自転車で、放置自転車の処分手段としては非常に有効だったようだ。

第2回目の社会実験

平成22年10月22日から同11月30日にかけて計40日間行われた。基本的に第1回目の実験を踏襲しているが、自転車の返却場所は自由となり、JR岡山駅前や後楽園で返すといったことが行えるようになった。

申込書に記入する必要があるということを除けば、岡山に来た観光客が、中心市街地の観光名所を回遊するには非常に便利な移動手段になるのではないかと考えられたのだが…。

第3回目の社会実験

平成23年9月15日から平成24年3月15日にかけて計182日、約半年にかけて行われた。JR岡山駅などで、ポスターの掲示やパンフレットの配布などが行われたため、記憶にあるという方も多いと思われる。

今までに行われた社会実験の結果を踏まえていくつかの点に変更が加えられた。

・**無料から有料へ**…1回利用は30分100円(以降30分毎150円課金)/1ヶ月利用は1,000円(30分以降は30分毎に150円課金)という形に変更された。高松などで行われている交通系ICカードを利用した決済ではなく、クレジットカードでの決済しか選べず、利用者を大きく限定する形となってしまった。

平成23年11月1日からは価格改定が行われ、延長料が150円から100円に、1ヶ月利用の課金対象が30分以上から60分以上に変更されている。また、クレジットカード以外にも現金での決済が行えるように変更された。

・**リサイクル自転車から専用自転車へ**…過去2回の実験で使われていたリサイクル自転車からドイツ製の26インチの自転車に変更された。日本で市販されている一般的な自転車での最大サイズが21インチということを見ると、日本人の体型に合わないのでは？という疑問を持ったが、その予感的中。特に、女性や高齢者の利用客からの意見で、「サドルが高すぎる」というものがあったそうだ。

・**24時間利用可能に**…例外のステーションも2カ所あるものの、24時間の利用が可能となった。

今回の実施への思い

今夏から開始されるコミュニティサイクルでは、県立図書館やJR岡山駅など17カ所にポートと呼ばれるステーションが設置される予定だ。利用時間は24時間、決済にはクレジットカードや現金に加え交通系ICカードが利用可能になるように、準備が進められている。自転車も専用自転車を用意するが、国産メーカーの標準的なモノになり、乗りやすさの向上などがはかれるようだ。

開始時期は7月下旬から8月上旬を予定。瀬戸内国際芸術祭の夏会期に間に合うか非常に微妙ではある。仮に間に合うのであれば、後楽園などへの移動手段として使ってもらい、自転車ならではの「ちょっとした寄り道」で、移動線にある商業施設への賑わいを創出できるのではないかと考えている。

循環バスのめぐりんの新路線が8月中旬から運行を開始するなど、中心市街の移動手段は大きく変わろうとしている。この機会に、駅から中心市街への交通アクセスについて、真剣に考えてみる必要があるのではないのだろうか。

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&FAX 086-232-5502

E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp

RACDA

検索



NPO法人 公共の交通ラダ
RACDA

詳しくは http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ まで



特集

MOMO 運用復帰



昨年の6月11日8時頃。月曜日の通勤・通学時間帯に事件は起きた。9200形9201号、通称MOMOと自動車が軌道敷内で接触。乗客数は約70名とほぼ満車状態、うち8名が打撲やねんざなどの症状を訴えたため病院に搬送されることになった。

事故が起きたのは、東山本線の県庁通り停留場～西大

寺町停留場間の見通しの良い交差点。交差点を直進しようとしたMOMOと、反対方向か



ら交差点に進入して右折しようとした乗用車とが衝突した。その後、架線柱と

MOMOの間に挟まった自動車によって、MOMOは線路外に押し出され、脱線した。

MOMOへの被害は大きく、前面部が大破。東山側車両の非公式側(※1)側面ガラスが割れるなどの被害が発生した。もし仮に、半年前に導入されたMOMO2こと1011号がこの事故に遭っていたらと考えると、背筋が凍る思いである。

事故の影響により路面電車の運転はストップ。バスによる代行運転が行われた。

この事故の調査のため、運輸安全委員会の事故調査チームが派遣され、実地調査が行われたが、その調査

結果は5月30日現在、まだ、公表されていない。

この事故の影響により9201号MOMOは修理のために長期間の運用離脱を余儀なくされることになり、東山の工場での修理が開始された。前面パネルや破損したドアなどは、ASSY(※2)ごとの交換となったようで、当初、予定されていたよりもかなりの長期間の修理時間が必要となってしまったようである。

.....

6月8日、路面電車の日についてMOMOの運用が再開される。運用再開の初日は、東山での「MOMOちょこっと運転体験教室」で、使用される予定だ。

運転体験教室の対象は小学生で、10時30分から、13時からの計2回、それぞれ25名定員で行われる予定となっている。事前の予約は行わず、当日東山会場でのみ先着順で予約を受け付ける。

.....

あと少して、岡山の街を2両のMOMOが仲良く走る姿を再び見ることができるようになる。

しかし、またこのような事故が起きてしまうことは防がなくてはならない。路面電車対自動車の事故の大半は一人ひとりの自動車ドライバーが軌道敷内への進入禁止(※3)など、教習所で習う当たり前のことさえ守れば防ぐことができることだ。

「車は急に止まれない」という有名な言葉があるが、鉄路を走る路面電車は車よりもさらに急の停車が出来ない。自分の身を守るという観点からも、岡山の街で日常的に繰り広げられている軌道敷内への進入という行為を今一度考えてみる必要があるのではないだろうか。

※1…山側とも言う。MOMOの場合は、下り方面の時に進行方向右側となる面。反対側は公式側/海側という。

※2…複数の部品が組み合わされたユニット。

※3…道路交通法第21条